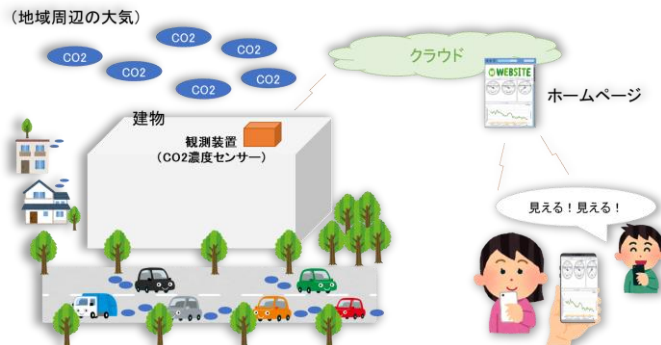


『CO2濃度の見える化』

■CO2濃度、私たちの周りはどうなっているの？



■CO2濃度見える化IoTシステム(センサー/無線/クラウド)



■ 地域住民の方への情報共有 (CO2濃度の見える化)

<実施内容>

- ・住民の皆さまへリアルタイムで自治体のCO2濃度を公開します。これによりCO2排出削減への関心を高めます。
- ・庁舎屋上や各地区公共施設屋上へ観測装置を設置して自治体HPで情報公開します。

<住民サービス向上と期待効果>

- ・カーボンニュートラル状態 (CO2濃度上昇:0ppm) へ向かっていることを住民・自治体でともに確認できます。
- ・他地域との競争や広域連携協働によるCO2濃度削減活動の加速が期待できます。
- ・パリ協定で採択された気温上昇2°C未満の達成にはCO2濃度にして450ppm程度 (430~480ppm) に抑制することが必要と言われています。実測し、状況を把握することで住民の意識喚起を図ることが期待できます。その結果としてカーボンニュートラルの実現を加速させることが期待できます。
- ・住民はカーボンニュートラル状態へ貢献していることへの自負感が持てます。
- ・自治体の行動によるCO2濃度低減は大気中で拡散し、隣接自治体に貢献 (お裾分け) することにもなります。

<次世代産業の醸成>

CO2回収システム (Direct Air Caputer等) や植樹 (光合成によるCO2吸収と蓄積)、そして回収後の貯留システムが出来ています。この3ステップを自治体内だけでなく他自治体と協調することで、それぞれの地域性を活かした産業醸成ができることも期待できます。いずれも継続的な運用・保守が必要な事業です。

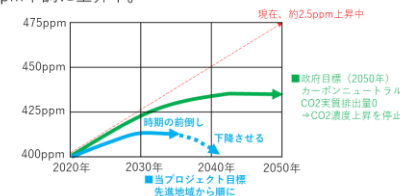
- (ステップ1) CO2濃度を測ります: IoTシステム導入
- (ステップ2) CO2濃度の高い地域へCO2回収システムや植樹を行います
- (ステップ3) 貯留可能な地域へ回収CO2や樹木を運び貯留します

<目標> カーボンニュートラル時期の前倒し

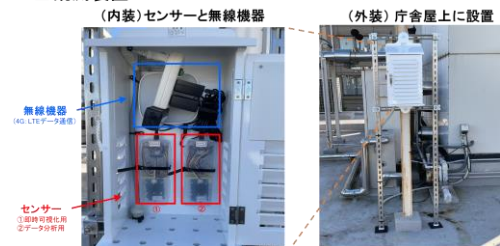
2050年、CO2実質排出量0 (排出量と吸収量が均衡) の時期を前倒す。

<指標> CO2濃度を計測指標とする (上昇から停止・下降へ)

現在、年に約2.5ppm単調に上昇中。



■観測装置



東京都江戸川区でテスト実施中です

区役所本庁舎屋上で大気中の二酸化炭素濃度の測定をしています
江戸川区ホームページ (city.edogawa.tokyo.jp)